

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書		令和 4年 6月 29日
静岡県知事 川勝 平太 殿		
提出者		
住所		静岡県掛川市浜川新田1700番地 スペラネクサス株式会社 静岡工場
氏名		取締役工場長 土橋 淳一
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)		
電話番号		0537-72-2200
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。		
事業場の名称	スペラネクサス株式会社 静岡工場	
事業場の所在地	静岡県掛川市浜川新田 1700番地	
計画期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日	
当該事業場において現に行っている事業に関する事項		
①事業の種類	化学工業(有機化学工業製品製造業) [203]	
②事業の規模	35億円	
③従業員数	100名	
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙(図1, 2)のとおり	

(日本工業規格 A列4番)

図1 製造および産業廃棄物発生フローシート

(枠内：産業廃棄物)

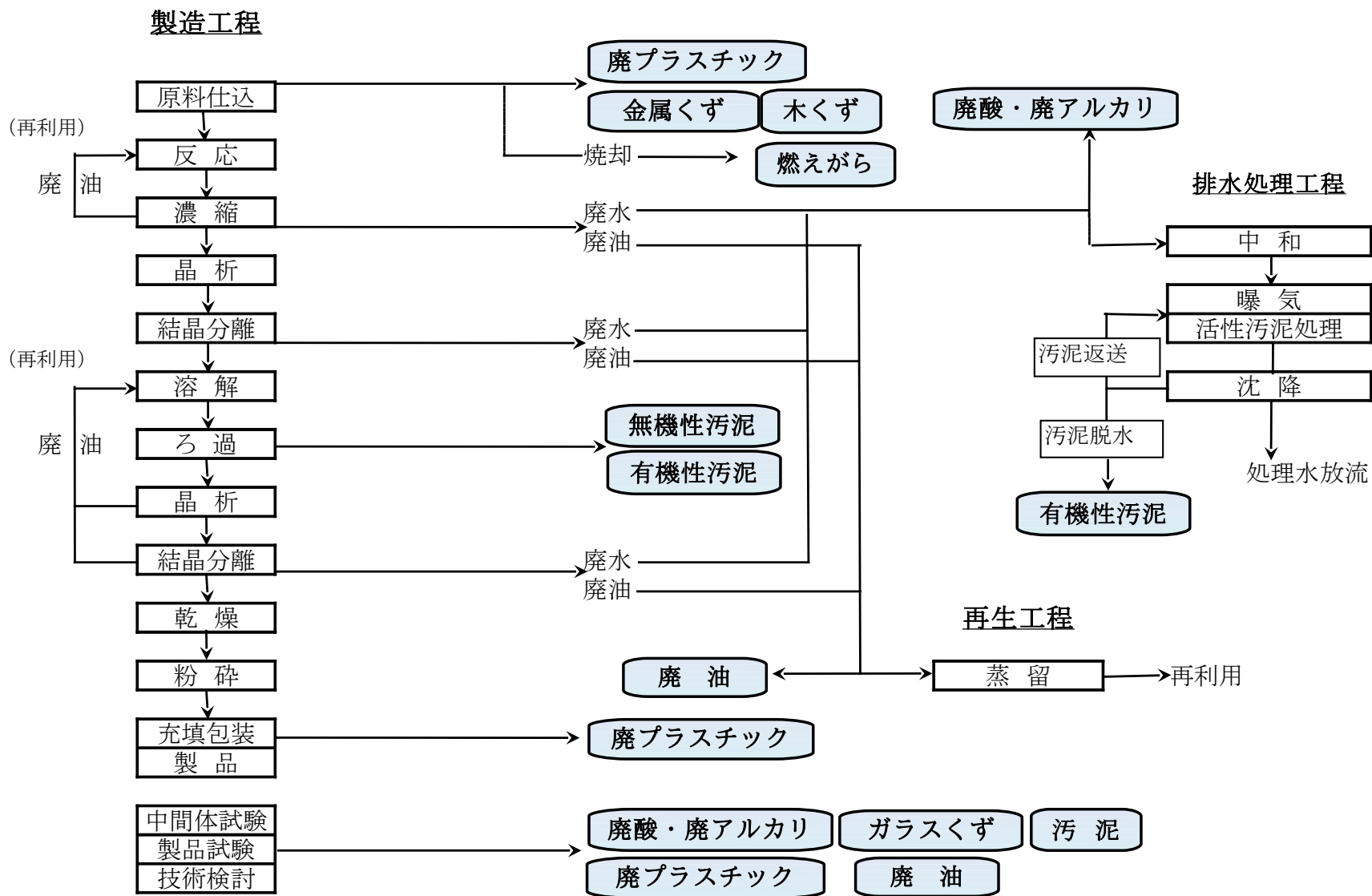
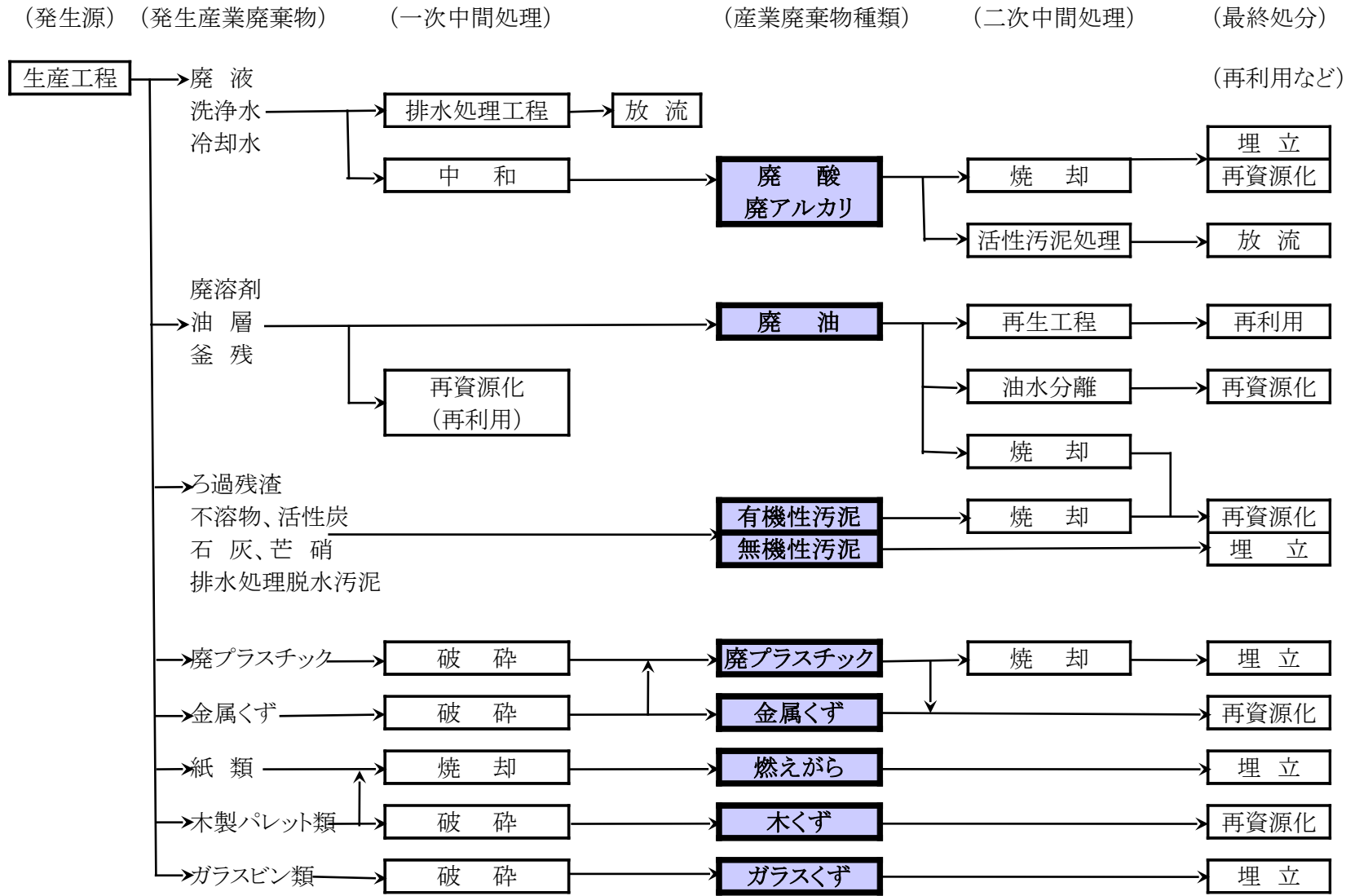


図2 産業廃棄物処理フローシート

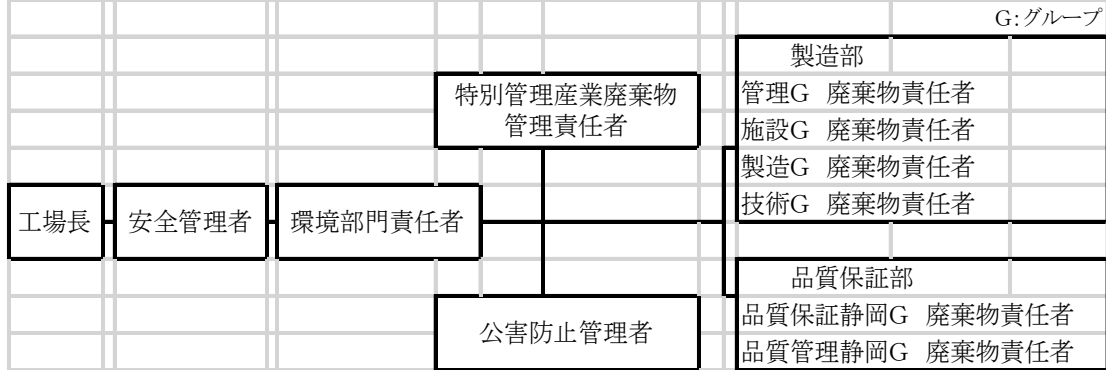
(枠内：産業廃棄物)



(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】	別紙（表1）のとおり	
	産業廃棄物の種類	—	—
	排出量	—	—
	(これまでに実施した取組) ・製品品質の低下・劣化の恐れや影響を考慮し、従来の製品について工程改善することは困難である。新製品やそのトライアル製造の段階で廃棄物の排出抑制に寄与する工程改善を実施している。 ・排水処理における汚泥の引き抜きを実施し、排水処理の安定化を図っているところ。排水処理に障害の出ない排水を自社処理することで廃液の外部処理委託量を削減する。		
②計画	【目標】	別紙（表1）のとおり	
	産業廃棄物の種類	—	—
	排出量	—	—
	(今後実施する予定の取組) ・引き続き新製品の試作やトライアルの段階で廃棄物の排出抑制に寄与する工程改善を実施する。 ・排水処理において汚泥の引き抜きを実施し、排水処理の安定化と処理能力向上を図る。それにより低負荷の廃棄物廃液を継続的に自社処理する。排水処理処理に悪影響のある廃液は外部委託処理するよう選別・区分けを行っていく。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・特に廃油について熱回収や再生利用が出来るよう、委託業者の見直しや有価化検討を行った。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・廃油は熱回収や再生利用ができるよう、また有価化検討も継続して行う。 ・廃プラについては再生利用を増やせるよう、分別方法の見直しを行う。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】 別紙（表1）のとおり	
	産業廃棄物の種類	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	—
	（これまでに実施した取組） 溶剤や原料を回収して再使用できる場所は手順で定めて既に実施している。 製品品質の低下、あるいは劣化の恐れを考慮すると、この取組は困難である。	
②計画	【目標】 別紙（表1）のとおり	
	産業廃棄物の種類	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	—
	（今後実施する予定の取組） 試作前の段階で製品品質に影響しない工程において、溶剤や原料を回収して再使用することを検討する。	

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】 別紙（表1）のとおり	
	産業廃棄物の種類	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	—
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	—
（これまでに実施した取組） ・排水処理において、排水処理能力の向上を図っているが、処理負荷の高い排水が入ることがあり、安定した排水処理ができない時期があった。その期間は自社処理廃液を廃棄物として処理委託することとなった。		
②計画	【目標】 別紙（表1）のとおり	
	産業廃棄物の種類	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	—
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	—
（今後実施する予定の取組） ・今後も汚泥の引き抜きを継続し、排水処理の安定化および能力の向上を図る。 ・処理負荷の高い工場排水は、いったん別のタンクへ保管するようなシステムを導入するよう検討する。 ・処理能力向上を確認できたら廃棄物廃液の処理量を増やす。		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和3年度）実績】 別紙（表1）のとおり		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	—	—
	（これまでに実施した取組） なし		
②計画	【目標】 別紙（表1）のとおり		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	—	—
	（今後実施する予定の取組） 予定なし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和3年度）実績】 別紙（表1）のとおり		
	産業廃棄物の種類	—	—
	全処理委託量	—	—
	優良認定処理業者への処理委託量	—	—
	再生利用業者への処理委託量	—	—
	認定熱回収業者への処理委託量	—	—
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—	—
	（これまでに実施した取組） <ul style="list-style-type: none"> ・ R3年度の実地確認はコロナ感染防止対策の為行っていないが、R元年以前は委託処分業者の処分状況（処理能力、処分場の維持管理等）の定期的確認を計画的に実施してきた。 ・ 実地確認が基本であるが、リモートや書面による事前確認を行えるよう検討した。 ・ 優良認定、再生利用、熱回収業者に委託する廃棄物割合を高めるよう検討した。 		

②計画	【目標】 別紙（表1）のとおり	
	産業廃棄物の種類	—
	全処理委託量	—
	優良認定処理業者への処理委託量	—
	再生利用業者への処理委託量	—
	認定熱回収業者への処理委託量	—
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度新たに契約する予定のある処理業者については、リモートや書面による事前確認を実施していく予定。 ・本年度の実地確認はコロナウィルス感染防止対策として出張を控えている（2022年6月現在）ため、収束状況を見て実施するか否か判断する。 ・収集運搬業者を含めて優良認定業者に廃棄物委託割合を高めるよう検討を継続する。 ・処理業者は再生利用、熱回収業者に委託する廃棄物割合を高めるよう検討を継続する。 		
電子情報処理組織の使用に関する事項	【前年度（令和3年度）実績】	
	特別管理産業廃棄物 排出量 (ホリ塩化ビフェニル廃棄物を除く)	1155 t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>なし (令和2年2月から完全切替済)</p>		
※事務処理欄		

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙

表1. 産業廃棄物処理におけるR3年度実績 及び R4年度目標値

産業廃棄物の種類		廃酸・廃アルカリ	無機性汚泥	有機性汚泥	廃プラスチック	燃えがら	ガラスくず	木くず	一般廃油	蛍光灯	
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項	【実績】 排出量	4353 t	61 t	93 t	23 t	10 t	2 m ³	9.2 t	1.9 t	0.06 t	
	【目標】 排出量	4500 t	70 t	100 t	25 t	7 t	1.5 m ³	10 t	2 t	0.05 t	
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項	【実績】 自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 m ³	0 t	0 t	0 t	
	【目標】 自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 m ³	0 t	0 t	0 t	
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項	【実績】 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 m ³	0 t	0 t	0 t	
	【実績】 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	399 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 m ³	0 t	0 t	0 t	
	【目標】 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 m ³	0 t	0 t	0 t	
	【目標】 自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	450 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 m ³	0 t	0 t	0 t	
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項	【実績】 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 m ³	0 t	0 t	0 t	
	【目標】 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 m ³	0 t	0 t	0 t	
産業廃棄物の処理の委託に関する事項	【実績】 全処理委託量	3954 t	61 t	93 t	23 t	10 t	2 m ³	9.2 t	1.9 t	0.06 t	
	優良認定処理業者への処理委託量	優良認定処理業者への処理委託量	3845 t	61 t	93 t	7 t	10 t	2 m ³	9.2 t	1.9 t	0.06 t
		再生利用業者への処理委託量	245 t	0 t	0 t	20 t	0 t	0 m ³	9.2 t	0 t	0 t
		認定熱回収業者への処理委託量	2382 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 m ³	0 t	1.9 t	0 t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	1572 t	0 t	93 t	23 t	10 t	2 m ³	9.2 t	0 t	0 t
	【目標】 全処理委託量	4050 t	70 t	100 t	25 t	7 t	1.5 m ³	10 t	2 t	0.05 t	
	優良認定処理業者への処理委託量	優良認定処理業者への処理委託量	3930 t	70 t	100 t	8 t	7 t	1.5 m ³	10 t	2 t	0.05 t
		再生利用業者への処理委託量	250 t	0 t	0 t	20 t	0 t	0 m ³	10 t	0 t	0 t
認定熱回収業者への処理委託量		2440 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 m ³	0 t	2 t	0 t	
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		1610 t	0 t	100 t	0 t	0 t	0 m ³	0 t	0 t	0 t	